

海老名市立柏ヶ谷小学校 学校運営協議会 議事録
(令和4年度 第3回)

- 1 日時 令和5年2月25日(土) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立柏ヶ谷小学校 会議室
- 3 委員 山崎久男委員、志村政憲委員、大矢和正委員、森山輝男委員
中垣洋委員、櫻井信夫委員、松本孝夫委員、加藤永歳委員、
植木文夫委員、小幡信司委員、鈴木佳子委員、藤原絵里奈委員、
麻生仁(校長)、姫野珠実(教頭) 青山明裕(教務主任)

- 【議題】
- (1) 学校生活の様子について
 - (2) 令和4年度「教育活動アンケート」結果の分析について
 - (3) 令和5年度の学校経営方針(案)について
 - (4) 60周年記念事業について
 - (5) その他

4 会議の内容

(1) 学校生活の様子について

① コロナ感染症の状況と対策について

麻生校長：本校においては、現在コロナ感染症による欠席者はおらず、ようやく収束に向かっていることを実感している。また、卒業式におけるマスクの取り扱いについて、国・県の方針を受け、海老名市がまとめたものが先日メール配信された。今年度の卒業式は、マスク着用に関してコロナ禍以前の形で実施する。しかし、様々な考え方もあることをふまえ強制ではなく任意とする。また、リスクが全くないわけではないので、これまで通りに感染対策をおこないながら実施する。入学式についても同様とする。

大矢委員：マスクなしでよいというのは、全市小中学校で同じ対応なのか。また、来賓の出席者は学校によって異なるようだが、来賓の出席者については、全校共通しているのか。また、どのような役職や肩書の方を来賓として招いているのか。

麻生校長：来賓招待者は、各校の判断に任せられている。これまで各自治会長さんや市議会委員さんを来賓としてきたが、本校は、学校運営協議会の委員の多くの方が自治会長であることから、学校運営協議会の方を来賓としてお招きし、他の方にはお声掛けしていない。

山崎会長：『希望する児童生徒・教職員はマスクを着用することができることとする』とあるが、これについてはどのように保護者に伝達するのか。

麻生校長：マスクについては、海老名市教育委員会からの発出ではあるが、事前に校長会等で協議した後の判断である。その協議の中で、学校ごとに式場の広さや感染状況が異なるため、各学校判断ということになった。また、式にどのような方を来賓とするかについても同様に各学校判断である。本校のように学校運営協議会委員の方々をお呼びするという学校が多いと把握している。

『希望する児童生徒・教職員はマスクを着用することができることとする』について、趣旨は保護者や児童に説明するが、着用者や未着用者に対して理由を問うことはない。児童に対して、卒業式の歌唱や呼びかけの場面でのマスク着脱について、海老名市や学校の意向は伝えるが本人の意思を尊重し、混乱がないよう配慮する。

(2) 令和4年度「教育活動アンケート」結果の分析について

麻生校長：今年度実施した、「教育活動アンケート」結果の分析については、『学校だより』で達成率の高低の著しい項目について考察を伝える。『児童の集計結果』については、昨年度実施のアンケート結果を受け、改善すべき項目について年間を通じて具体的に取り組んできたことが良い結果として（数字に）表れている。反面、具体的な取り組みが十分でなかった項目については達成率が低かった。これらのことから、今後も、学校評価や日々の児童の様子から明らかになった課題については、解決のための手立てを明確にしたうえで地道な取り組みを行い、改善に結びつけていきたい。

次に『保護者のアンケート結果』については、with コロナでの学校行事の復活に伴い、様々な教育活動への関心が高まった。また、学校行事への協力や参加の際に多くの保護者が「子どもが楽しそうに学校に通っている」と感じてくださっていることをうれしく思う。一方、「家庭学習に関する項目」の達成率が昨年に引き続き、低い評価となった。これを踏まえ、『学習の手引き』の周知の工夫や、児童の興味関心が高いタブレットを活用した学習について研究・検討しており、今後も効果的な指導の方法を試行していく。「学校の緊急時の対応の理解」についても「たより」や会議、懇談など具体の取り組みを実施し理解を求めていく。

松本委員：『給食を残さず食べているか』の達成率が低いですが、これは食べ物の好き嫌いが多いためか、食べる量の問題なのか。

青山教務：どの学年も給食を全部食べるというような強要はしていない。しかし、食については個人差が大きく、学年やクラスによっても残量は様々である。残量については季節が関係することもあり、冬場は牛乳の残量が多い。

小幡委員：1～3年生は入学時から、黙食や「話さない・近寄らない」などの制限の中で生活してきているので、『放課後、友だちとよく遊びますか』や『あいさつは

できていますか』等のアンケート結果はコロナの影響も大きいと感じる。
また、「家庭学習の手引き」は学校が作成したものなのか。

麻生校長：友だち関係やあいさつについては、コロナ禍におけるコミュニケーション不足の影響は少なからずあるかもしれない。マスク着用の緩和でどのような変化があるかというところ。「家庭学習の手引き」はPTAが作成したもので、初版はカラー刷りのものを配付したと聞いているが、その後は毎年1回4月に単色刷りのものを各家庭に配付している。

鈴木委員：「家庭学習の手引き」は、3年前にPTA広報委員会が作成・配布した。勉強だけでなく、家庭での手伝いや家族との対話も含め、児童自ら取り組めるものややりたいものを入れ込んだ内容にし、広報紙の特別号として発行した。家庭学習で困っている方に参考にしてほしいという意図で作成した。タブレット活用を新たに入れるなど、改訂が必要かもしれない。

小幡委員：配付されても、いつまでも広報に目を通す保護者は少ないのではないかと。また、『子どもの家庭学習に学校で配付した家庭学習の手引きを活用している』という項目が適切かどうかや内容の検討も必要だと思う。

櫻井委員：『困ったことや悩みがあるときは誰かに相談していますか』という項目があるが、どれくらいの児童が先生の所へ行くのか知りたい。

青山教務：教師のところへ相談などに来る児童の頻度や数を明確にすることはできないが、学期に一度の「思いやりアンケート」で児童からの悩みや相談を受ける機会がある。また、日頃から教職員は児童の様子の変化など把握に務めながら、対応として、話しかけたり、悩みを聞いたりしている。

山崎会長：達成率の低い項目については、その後、もう少し細かい項目を作って、再調査をすると原因がつかめるのではないかと。また、新たに『悩みごとは誰に相談しているか』という設問があると、より分かりやすい結果に結びつくと思われる。

中垣委員：勉強時間が少ないという結果が出ているが、少ない理由を把握する必要がある。

加藤委員：アンケートは1年生から6年生まで、同じフォーマットで実施しているのか。1年生にとって「あてはまる」と「ややあてはまる」の判断は難しい。また、高学年に至っては、「この設問にはこう答えたほうがよい」などと考えたうえで答える児童もいるのではないかと。全学年が同じ形式や文言のアンケートに取り組むのは難しいと思う。

また、『だれかに教えてもらっているか』『だれかに相談しているか』という設問についてだが、海外に比べて、日本の子どもは援助要求が不得手であるため、だれに助けを求めたらいいのかを具体的に示してあげるとよい。

アンケートは全体を通して、項目によっては結果が低いことが悪いこととは限らない。アンケートは重要だが、コロナ禍による経済困難等の事情で、子どもにしてあげたいけどできない家庭もあるのではないかと。家庭環境を考慮して実施していく必要がある。また、アンケートは目安にもなるがプレッシャーにもなる人がいることも考慮したほうがよい。

『家庭学習の手引き』についてだが、様式が手引きというよりは紹介に近い。

すごろく形式のフローチャートのようにしてみてもどうか。

青山教務：「家庭学習の手引き」は、抜粋したものを更に細分化し、学年ごとに作成したのもも配付している。「かしわっ子の5年生の家庭学習（50分～60分）」のプリントが一例である。

植木委員：今の子ども達は、ここまで示さないで勉強をしないものなのだろうか。

鈴木委員：学年始めの懇談会で、この資料とともに「家庭での学習習慣をつけること」と先生から説明を受けた。タブレットでの宿題が出されるようになり、先生との課題のやり取りや子どもが楽しんで取り組める学習プログラムなど進んで取り組んでいる。

麻生校長：低学年の児童に対しては、担任がアンケートの設問項目を読み砕いて、理解できるようにしている。結果分析については、6学年をまとめてではなく、低学年・高学年で分けて考察することも可能である。

植木委員：アンケートの回答は各家庭の事情や環境によって様々であり、子ども達の理解にも差がある。結果を一緒に考えるのは難しい。

保護者への『PTA活動には積極的に参加していますか』は、どの活動に参加しているか具体的に問うとよい。

児童への『あいさつはよくできていますか』について、子ども達はあいさつをする場を限っているように感じる。見守り隊をしている時は、挨拶をしてくれるが、普段のあいさつが全くできていない。しかし、これについては、学校での教育ではなく、家庭での教育だと思う。

藤原委員：今の子どもたちは、あいさつをすべき場所以外ではしない。家庭で知らない人とは迂闊にコミュニケーションをとるなと教えられているので、セーブしているのは事実である。

大矢委員：ごみの分別を子ども達がきちんとしているというのに、親ができていないということが目に付く。子ども達の将来を見据えて、学校がごみの分別活動や環境問題に取り組んでくれていることに感謝している。

松本委員：「家庭学習の手引き」を利用しているかという項目に対する保護者の達成率が低いから悪いというのではなく、すでに自分のやり方で取り組んでいるから利用しないというケースもある。『困ったときに利用しているか』という問い方にしてみてもどうか。

麻生校長：設問数が限られている中で問い方も難しいが、検討する。「家庭学習の手引き」の内容はよいものと思っているので、今後は周知の方法を考えていきたい。

櫻井委員：警察が学校に来て、防犯教育などの犯罪を抑止する活動はしているか。

麻生校長：海老名警察署と連携して、犯罪に関する指導や講話など、年1回で行っている。今年度においては、PTA主催の家庭教育学習でSNSに関する犯罪防止の講話を5・6年生と保護者を対象に行った。

鈴木委員：SNSの使い方やSNS上での犯罪など親にとっても知らないことが多く、勉強になった。保護者の参加者が少なかったのが残念だった。

志村副会長：地震が起きた時の咄嗟の行動が身についており、子ども達への災害に対する

訓練や指導に感謝している。訓練を継続して行ってほしい。海老名市の危機管理課による、防災講話や地震・風水害の指導を是非活用していただきたいのと同時に、先生方の防災に対する意識を高めたい。

森山委員：自治会の防災研修会に危機管理課の方を招いて講話をしていただいた。高学年の子ども達に話してもらおうとよい内容だった。

山崎会長：「教育活動アンケート結果」を学校だよりに記載して地域に配布していただくのはありがたい。「分析結果のまとめ」が文章化されているが、内容が一目で分かるよう項目を立てたり、太文字で強調したりするなど表記の工夫がほしい。「達成率が低かった項目」について、改善の具体的な取組みとか方向性も触れ、「達成率のよかった項目」についても同様に、さらによくやるよう教育活動に取り組んでいきたいという思いを示したらどうか。

(3) 令和5年度の学校経営方針（案）について

麻生校長：「健康でたくましい子」「豊かな心、思いやりのある子」「よく考え、学び合う子」の三つの学校目標を「健康・安全グループ」「児童指導・支援教育グループ」「授業研究・教科指導グループ」が、どのようなことを中心となって進めていくかが分かるようにレイアウトした。

「つなげる⇔つながる柏中学区」「幼保小中連携」「創立60周年記念事業や教育活動の実施」を盛り込んだグランドデザインを提案する。

山崎会長：この「学校経営方針」は、各家庭や地域に周知するのか。

麻生校長：学校だよりで周知する。

山崎会長：「幼保小中連携」について、子ども達の育ちを長いスパンでそれぞれが関わりながら対応していくということだが、先日の「コミュニティースクール連絡会」で知ったことだが、幼稚園の園長が学校運営協議会のメンバーのひとりになっている学校があった。本校も検討してもよいのではないか。

志村副会長：今泉小学校でおこなわれた、市内各学校の学校運営協議会メンバーが参加した情報交換会に参加した際に、本校のメンバー構成について、地域の自治会長が全員メンバーになっていることを賞賛された。柏中学区は連合が強く、かたい絆でつながっていること、また地域への熱い思いが感じられることもモデル地域になった理由ではないか。

藤原委員：「幼保小中連携」について、幼稚園や保育園の子ども達が小学校に来るなどの活動はあるのか。

麻生校長：幼稚園・保育園との活動は、コロナ以前の形に戻していく方向。現在でも情報連携は密におこなっている。また、来年度よりスタートアップカリキュラムを取り入れ、新1年生が幼稚園（保育園）からスムーズに小学校の生活に慣れるような学習計画等を検討し実施していく。

大矢委員：「不登校対策の強化」とあるが、コロナを理由にして、不登校児が増えていると聞くが、現在の状況を知りたい。

麻生校長：不登校傾向は高止まりであり、海老名市では小学校の不登校児が増えている状

況である。本校も数名おり、不登校の事情や状況は様々である。だが、その児童達を登校させることがゴールではなく、マニュアルにしたがって個に応じた対応をしている。別室登校ができる場所や人員の確保などもおこなっている。

山崎会長：30年ほど前まで使われていた「登校拒否」という用語が、『学校に行かないことは悪いこと』というような印象を与えているのではないかという反省から「学校に行きたくても行けないこと」を「不登校」と呼ぶようになった。その後、適応指導教室とか、保健室登校とか、民間施設など、不登校の子が安心して学べる環境作りが工夫されてきている。

加藤委員：不登校児は全国的に増加傾向であり、今後減少させることは難しい。学校にいるはずの時間に町で見かける子どもへの寄り添った言葉かけや、温かく見守る地域であってくれとありがたい。

志村副会長：グランドデザイン全体を見たときに、文字数が多いと感じるので、読みやすい工夫があるとよい。

山崎会長：子ども版のグランドデザインづくりを検討してみたらどうか。子ども達が思っている学校教育への理解が、よりいっそう深まるのではないか。それを家庭に配付することも考えられる。

(4) 60周年記念事業について

麻生校長：これまでにいただいた意見をもとに、いくつかの事業を計画している。まず、記念式典と記念音楽会を実施する。時期は令和5年12月19日。学校運営協議会委員の皆様にはご参加いただきたい。その他の内容としては、南棟昇降口上部に60周年記念時計の設置。航空写真撮影。記念Tシャツの作成。記念菓子の配付を予定している。記念事業の予算は自己負担とPTAからの補助(周年行事積立金)を充てる。

藤原委員：お菓子の配付についてだが、ものによって食物アレルギーのある児童は食べられない場合がある。児童の実態を把握して、より多くの児童が食べられるものにしてほしい。

麻生校長：食物アレルギーの実態把握はもちろんのこと、食べ物でなければならないということはないので、再度検討する。

鈴木委員：自校給食ではないので難しいかも知れないが、記念給食という形で記念式典の日の給食に特別な一品を加え、みんなで一緒に食べることができたら楽しそうだなと思う。

桜井委員：事業内容については決定したものか。記念Tシャツと食べ物の配付は再検討した方がよいと思う。

山崎会長：航空写真の希望購入について詳細を知りたい。

麻生校長：撮影された写真を業者がインターネット販売するので、保護者にそちらをご覧ください、ほしい人が購入するというもの。航空写真がプリントされたクリアファイルは児童一人に1枚ずつ配付される予定である。

(5) その他

小幡委員：航空写真等で、集合して写真を撮るということを拒否する方がいるという話を聞いたことがあるが、そのような児童がいる場合どのように対応するのか。

麻生校長：撮影した写真で我が子と特定できるものについて、ホームページや各種便りに掲載してもよいかどうかについては、保護者の承諾確認を取っている。

植木委員：体育館の老朽化が激しい。改善してほしい旨を市長に伝えた。海老名市の予算面で難しいとのことだった。

森山委員：柏ヶ谷自治会の行事を体育館でおこなった際に市長が来場し、現状については把握している。避難所にもなっているが入り口に行くまでに階段があるなど、避難所として適していない。全改修は難しくても、多少の改修はされるべきであることを市長ミーティングで再度伝えてくる。

5 事務連絡

- ・令和4年度卒業証書授与式のご案内
- ・令和5年度の年間行事予定について